

令和3年度 第2回 富谷市協働のまちづくり推進審議会 会議録

日時：令和4年3月23日（水） 14時00分～15時38分

場所：富谷市役所3階 305会議室

出席者：富谷市協働のまちづくり推進審議会 出席委員9名 欠席委員1名

：富谷市 1名

：事務局 5名

1 開会（司会：市民協働課 高橋課長）

2 会長挨拶（佐々木会長）

皆さんこんにちは。本日もお忙しいところありがとうございます。短縮ということですので私も一言だけにさせていただきますが、まず最初に、先程資料3の追加配布がありましたけども、本来でしたらこの審議会は2月に開催されまして、また1月23日に市民協働セミナーを行って市民の皆様のご意見を聴くということにしていたのですけども、この状況でこのような改訂版のスケジュールになったということで、ご了解いただくとともに、限られた少ない制限のある日程にはなりましてけれども忌憚のないご意見を引き続き頂戴できればと思っております。以上で挨拶は終了させていただきますけれども、今日も実は県内の自治体の都市マスタープランという委員会がありまして、そこから東部道路を通して駆け付けて来たのですけれども、こういった協働のまちづくりとか、こういった話し合いの拠点とか場というのは実はすべての計画の土台になっているものでして、富谷もこれから都市マスタープランを策定すると聞いております。実はその都市マスタープランというのが政策を作る過程で住民参加、市民参加が実はもう義務付けられているということになってまいります。そういった意味では、自由闊達に忌憚なく意見を出していただきますけれども、私たちが今やっているこの審議会、あるいはガイドラインを作ったり、市民活動の拠点なんかを考えていくという作業はですね、実はすべてのまちづくりの土台になっていくということで富谷の総合計画にも掲げられていますけれども、非常に今後重要となってくるものでございますので、ぜひ今日も忌憚のない意見を出していただきまして、そしてまた色々な様々な計画に反映されていきますので、ぜひそういったところも協働のまちづくりの視点で皆様にもご参加、あるいはチェックということをお願いできればと思います。それでは冒頭にご挨拶とさせていただきます。今日はよろしくお願いたします。

3 市長挨拶（若生市長）

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しいところ、第2回富谷市協働のまちづくり推進審議会ということでご出席いただきましたこと心から感謝を申し上げたいと思います。そして日頃より委員の皆様にはそれぞれの立場で市政全般様々な形でご指導ご支援ご協力賜っておりますことを改めてこの場をお借りしまして感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。先程佐々木会長からありましたが、コロナの影響によりまして、予定していた事業が開催できなかつたり、予定した活動ができなかつたりという相変わらず制限されている状況で、本来であれば市民協働セミナーを開催する予定で大変楽しみにしていたのですけれども、ちょうどコロナが感染拡大した時期でもございまして、やむなく中止ということに至ったところで

ございます。つきましては、今日はそういったところも含めて、皆さんから忌憚のないご意見をいただければと思います。今日ここにいる審議会の委員の皆さん方は、日頃からそれぞれの市民活動または公益的な活動に関わっている皆さんでございます。2年以上、もう3年という長い間、このコロナの影響を受けて、本来であれば活動すべきことができない状況が続いてきていて、昨日もちょうど県の民間非営利活動促進委員会の会議があって出席したのですが、正直こういった状況が続いていると、市民活動または非営利活動に参加する人たち、本来であれば色々な活動を通して新しい人材が発掘されて、そこに参画することによって正しい人材が育ってくるのですが、この2年以上そういった活動が制限される中では人材育成そのものも不安視されるということも昨日話し合いの中で出されたところがございます。そういった中では、今まさに第6派オミクロン株が、相変わらずというか下がってきてはいるものの高止まりという状況でございます。何とか日常生活を取り戻したら、しっかりとこれからそれぞれの活動がまた再開できますように、我々行政としても市民力の基本はやっぱりそれぞれの活動があって、市民の皆様がそこに関わって、その地域、人々が活発に生き生きと過ごせる社会が作れるというふうに思っております。今日はそういった公益的な活動、市民活動にどういった支援できるのだろうか、どう在るべきかということをご意見いただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございます。

※市長 退席

※ここから、会長が議長となり議事が進行された。

5 審議事項

(1) 公益的な活動への支援について

(佐々木会長)

今日なるべく皆様のご発言の時間を確保したいと思っておりますので、前半部分はなだけ詰めていきたいと思っております。それでは審議に入ります前に委員の皆様にお諮りいたします。会議の傍聴希望があった場合、傍聴を許可してよろしいでしょうか。

※「異議なし」の声あり

それではご了解をいただきましたので、希望があった場合、傍聴を許可することといたします。それでは本日の傍聴人について、事務局から報告を願います。

(市民協働課 高橋課長)

本日傍聴の申し込みはございません。

(佐々木会長)

審議会の途中で傍聴希望があった場合、傍聴を許可することといたします。また、富谷市情報公開条例に基づく開示請求があった場合、本審議会と会議の資料

及び会議録を公開することとなりますので、ご了承願います。なお、個人情報に関する情報等が含まれる場合は、富谷市情報公開条例第7条に基づき、部分開示とすることを申し添えます。それでは、審議に入っていきたいと思えます。公益的な活動への支援についてを議題といたしますが、まず事務局から、それぞれ資料1、2、3と配布されています。時間の関係もありますので完結にご説明をいただければと思えます。

(市民協働課 瀧田課長補佐)

それでは私から資料の内容について説明申し上げます。昨年12月16日に開催した第1回審議会において、事務局よりご提示申し上げました公益的な活動への支援について、富谷市総合計画後期計画における市の考え方や昨年度策定した協働ガイドライン「わくわく つながる わたしたちのまちづくり」における取組の方向性、市における市民の活動を支援する主な施設の現状等を踏まえて、委員の皆さまよりいただいた、現状の課題やご意見を集約し、分類して整理させていただいたものが資料1、項目別にまとめたものが資料2となっております。初めに資料1について説明をさせていただきます。委員の皆さまの意見を(1)市民、地域の視点からの課題というくくりで整理しております。後ほど説明いたしますが、支援施設側の課題とは項目を分けて整理しています。初めに、委員意見の1番として、日諸委員より、高齢者の方々の社会参加、居場所づくりを行うことにより生きがいを持ち続けられるような地域づくりができるのが富谷で、支援に盛り込んでいきたいとのご意見がございましたので、ア、生涯現役、人生百年がうたわれる中、地域の元気につながる高齢者の活躍や居場所、つながりを作るなど社会参加を続けるための支援が必要として課題の項目といたしました。続いて、委員意見の2番として、村上委員より、健常者も障がい者も関係なく色々な所で活動の広がりができるのが富谷なので富谷ならではの支援を作っていけると良いとのご意見がございましたので、イ、健常者も障がい者も一緒に活動できるよう、ノーマライゼーションの視点での支援が必要として課題の項目といたしました。続いて、委員意見の3番、4番として、村上委員、佐藤政悦委員より、町内会や町内会館の地域間での偏在があり、課題が異なるとのご意見がございましたので、ウ、町内会館、公民館の利用が活発な地域がある一方、人が集まりにくくなっている地域があるなど、地域によって課題が異なることから、地域の実情に応じた支援が必要として課題の項目といたしました。続いて、委員意見の4番、5番として、佐藤政悦委員、佐藤怜美委員より、活動継続について後継者不足の問題が存在するといったご意見がございましたので、エ、活動を継続していくための後継者問題が顕在化している。コロナ禍にあって、とりわけ町内会においては、活動の担い手や行事への参加者が減少するなどの問題が深刻化している地域もあることから、後継者の育成や町内会活動を盛り上げていくための支援が必要として課題の項目といたしました。以上、委員意見の1番から5番までの各委員の意見を整理した課題のアからエまでについて、①多様化する市民活動への対応とタイトルをつけて整理しました。続いて、2ページ目となります。委員意見の6番として、佐藤政悦委員より、農業という自分たちの特徴を生かしたつながりづくりもいいのではとのご意見がございましたので、ア、田園や森林が広がる地域がある本市の特性を生かし、そのような地域の町内会とNPOが連携するなど、分野や地域を超えた、各々の活動主体の長所をつなぐ支援が必要として課題の項

目といたしました。続いて、委員意見の7番として、北野澤委員より、移住者の受け入れによりどんどん前に進んでいくであろう新興住宅地と追いついていけない旧まちの地区があるので、底上げが必要であるとのご意見がございましたので、イ、移住の受け入れや活動人口を増やす取組などを通して、活力が低下している地域に新たな連携やつながりを生み出していくための支援が必要として課題の項目といたしました。以上、委員意見の6番、7番の各委員の意見を整理したアとイについて、②分野や地域を超えた連携、つながりづくりとタイトルをつけて整理しました。続いて、委員意見の8番、9番として、北野澤委員、佐藤怜美委員より、市民活動支援の拠点について、距離的な要因により、誰もが使いやすい、身近な施設ではない状況にあるため、公民館であったり現在の施設を基幹型とした上で利便性を確保できないかとのご意見がございましたので、ア、支援の拠点となっている、とみぶら、ボランティアセンターは住んでいる地域によっては距離的に利用しづらいことから、公民館など既存の施設を活用した身近な場所での支援も必要として課題の項目といたしました。続いて、委員意見の10番、11番として、増田委員、平岡委員より、身近にあって、様々な方が利用することのできる町内会館の有効活用についてご意見がございましたので、イ、市民の活動の場として、最も身近な町内会館の活用を促進させていくことが必要として課題の項目といたしました。続いて、3ページ目となります。委員意見の12番として、増田委員より、新たに市民活動を始めたいと考えている人に対して、既に市民活動をしている人が支援する体制づくりの必要性についてご意見がございましたので、ウ、既に活動をしている市民や団体が、活動を始めようとしている人や活動に悩みを抱えている人を支援する仕組みづくりが必要として課題の項目といたしました。以上、委員意見の8番から12番の各委員の意見を整理したアからウまでについて、③地域資源、人材、施設の活用とタイトルをつけて整理しました。続いて、委員意見の13番、14番として、北野澤委員、平岡委員より、公益的な活動について、市民へのアクセス方法や情報の周知が不足しているとのご意見がございましたので、ア、市民が活動を始める時にどのようにアクセスしたらいいのか分かりにくい面があるので、誰もが分かりやすい情報を発信し、浸透させることが必要。また、多くの人に施設を利用してもらえるよう、情報発信の方法を工夫することが必要として課題の項目といたしました。さらに、会長意見の13番で、佐々木会長より、活動のノウハウをまとめたケースブックのようなものを作って、色々な活動事例を見える化していくことにより、公益的な活動への熱い思いを実現に向けて一歩踏み出させることができるというご意見がございましたので、イ、活動の事例やノウハウをまとめたケースブックのようなものを作成するなど、市民の活動を広く共有するための支援が必要と課題の項目といたしました。以上、委員意見の13番、14番及び会長意見の13番を整理したア及びイについて、④情報の発信と共有とタイトルをつけて整理しました。最後に、その他の(1)として提言のとりまとめについて、北野澤委員より、昨年度とりまとめたガイドラインにおいても各論を入れているので、項目を区切って提言していくことが必要であるといったご意見がございましたので、論点について総論、各論を整理して支援の在り方をとりまとめていくこととし、(2)として、支援体制を構築していく上でのプロセスについては、平岡委員より、これまでどおり丁寧に市民の意見を聴取し反映しつつ、目標とする期間内で計画的に前に進めていくことが必要とのご意見がございましたので、提言の中に整理していくこ

ととして、まとめております。

続きまして、資料2をご覧ください。1ページから3ページの上段まで、これまで説明申し上げました項目について掲げさせていただいておりますが、3ページの3行目以降に(2)支援施設等が抱えている主な課題という視点から、現状、富谷市の中で市民の活動を支援する主な施設である富谷市まちづくり産業交流プラザ、とみふら、富谷市ボランティアセンター、各公民館のほか、市民協働課を含むそれぞれの施設等において抱えている主な課題について、整理しております。続いて、本日配布いたしました資料3について説明いたします。まずは今後のスケジュールについてです。5月上旬に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を延期していた市民協働セミナーを開催し、参加者から出されたご意見についても、5月下旬開催予定の第3回審議会において、委員の皆さまに内容をご確認いただき、ご意見をいただく予定としており、その後、6月開催予定の第4回審議会にて答申をいただくこととしております。続いて、令和4年度における市民活動への支援事業についてご説明申し上げます。まず一つ目に、新型コロナウイルス感染症の感染対策として、市民活動団体に対し、その活動を支援することを目的に、手指用消毒液を配布する予定となっております。二つ目として、市役所本庁舎1階市民交流ホールに団体の活動を広く市民の方々に知っていただくことを目的として、パンフレットスタンドを設置する予定となっております。説明は以上です。

(佐々木会長)

ありがとうございました。それでは、説明を受けて読み込む時間もあるかと思っておりますので、コロナの関係もありますので、少し早いかもしれませんが、5分休憩を挟みまして、25分頃に再開していきたくと思います。私から今の事務局の話に対して何か申し上げるとすれば、まずは住民参加という形で、何らかの形でたたき台が、例えばコンサルティングなどが作っていくというのではなくて、皆さんの意見を基に作り上げていくということは大変な作業だと思うのですけれども、非常に分かりやすくまとめていただけて感謝申し上げたいと思います。これを基に提言という形にまとめていくわけなのですけれども、それもまたテクニックがいるというところもあってですね、皆さんの意見をどのように短い文面で伝えるかという、またご苦労かけると思うのですけれども、その辺チームワークを発揮して、今日の議論を含めて、さらに練り上げていくということになるかと思っております。それでは、5分休憩をとりまして、皆さんから後半ご意見、提言いただければと思います。

休憩

(佐々木会長)

それでは再開していきたくと思いますけれども、これから皆様にまたざっくばらんにご意見いただきたいと思うのですけれども、前は完全にフリートークということですね、皆様それぞれに活動されていますので、そういった時に富谷の市民活動をさらに促進させる、あるいは日々の課題をどうやって解決するか、そういった視点で自由に意見を出していただけてということになっております。その際、特にハード面で、拠点を作ってくれという要望型、陳情型の意見交換会

ではなく、ソフト面、まさに皆様方がやられている日々の活動から、ソフト面でどういった課題があるかということで、前回課題出しをさせていただきまして、その課題を事務局の方で整理していただいて答申につなげるような形で項目を立てて、答申の案になるような資料2ということで今回はまとめていただいたということになるわけです。資料1は、細かく、詳しく説明していただいたんですけども、資料2をもう一回見てみますと、こういったことが非常に答申案につながっていくということになるわけですが、市民の公益的な活動への支援に関する本市の課題、ソフト面における機能についてということで、ここにこういうことが富谷に必要だということを盛り込んでいくという作業が本日ということになるわけですが、(1)は市民、地域の視点からの課題ということでまとめていただきました。まず課題観ですね、課題整理をしていただきました。そういう中で、多様化する市民活動への対応ということで、市民活動の様相が少し変わってきているのではないかとということに基づいて、ア、イ、ウ、エという形でまずまとめていただきました。例えば、皆さん方から、ここにこういった視点も必要なのではないかとということで、今日、プラスしていただくことも大変ありがたいのではないかと考えておりますし、実際、言葉の表現ですね、そんなに長い文章ではないので、ぱっと見て時間内で見れると思うのですが、ここが変じゃないかとか、この表現はもうちょっと違う表現使ったらいいのではないかと、そういった意見もいただくとありがたいんじゃないかなと思います。課題としては二つに分けていただいておりまして、もう一つが分野や地域を越えた連携とかつながりづくりということが課題ではないかと書いているんだと思います。前の方で、市民活動への対応と書いてありますので、連携やつながりづくりの促進みたいなことになるのだと思いますけれども、連携やつながりづくりを促進するためには、どういった支援が必要かということでですね、ここでは田園風景など、本市の地域特性を生かして連携する、それをつなぐ支援が必要じゃないか。あるいは、活動人口や移住など、人をどのように受け入れていくかという視点、アとイを書いてもらいました。そして、3番目が、これも課題になるわけですが、地域資源の活用をどう促進していくかということで、まずハード面になりますけれども、支援拠点、とみぶら、ボランティアセンターといった、しんまち辺りに集積しているところ、ただ、それだけでは不十分で、公民館や、例えばイのところでは町内会館、そういったものをどう活用していくか。また、新たに始める人を既に活動している先輩がどのように支援するかという仕組みづくり、そういった今あるものをどのように活用するかということで、まず(1)市民、地域の視点からの課題としては、①多様化する市民活動への対応、②分野、地域を越えたつながりづくり、③地域資源の活用ということで、三つにまとめていただきました。また、④が情報の発信と共有ということで、情報をどこにどのように集積させて、それをどう広げていくか。私も発言しました、各地域が既にやっております活動の可視化ということでですね、そういった発信と可視化、その辺について触れていただきました。(2)以降は、前回(1)の議論が中心になっていましたので、(2)はそんなに議論していないのですが、各拠点について具体的に、もちろんハード面、ソフト面という議論ありますけれども、ハードとソフトは実は一体のところもありまして、それをコミュニティデザインと言われておりますけれども、このような形でハード施設があつて、一つはとみぶら、正式名称が富谷市まちづくり産業交流プラザ、ここでの課題、これはざっく

りですけれども、この辺はまだあまり議論出し尽くしていないと思います。とみぷらで、例えば富谷塾なんかで活動している方が出店したい場合に、どのように場所を見つけるかとか、とみぷらに入居希望があっても、もちろん限界があるというふうなこと。あるいは富谷のボラセンなんかではスタッフのこととか、あるいは打ち合わせスペースの場がさらに必要じゃないかとかということ、とりあえずア、イという形で当ててもらっています。あと公民館ですね。利用者、参加者のニーズに応えるためのスキルアップが必要ということ、あと築30年施設が多いということ。ハードではないんですけれども、市民協働課、支援施設が抱えている課題ということで、自分で自分のことを書くというと書きにくいと思うんですけれども、専門的な相談対応や十分な情報提供やチラシの備付けなど、活動団体が利用できるスペースの確保、活動団体同士の交流の場の拡充が必要ということで、市民協働課も一つ市役所というハードの中に入っている窓口だとすれば、ここにアという形で一つあるのだと思うんですけれども、本当はもっといっぱいあるのではないかというふうに思うわけです。ということでですね、皆さんからご意見をいただきたいと思うのですが、課題の抽出の方は、おおよそ良くできているのではないかと思います。むしろ、整理あるいは付け足しということで、こういったことが必要じゃないかとか、今日の議論もですし、もしかしたら、それぞれの団体に戻ってから、こういうのを入れた方がいいのではないかということがあれば、意見を出していただければと思います。特に(2)は、とりあえず支援施設の抱えている課題というふうにしていますが、他にも先程町内会館というのが出たと思うんですけれども、ここには町内会館というのは入っていないんですけれども、私も実態は分からないのですが、建物を、支援を、市民活動を促進するという意味で、支援の場がないと人が集まらない、集まる場がないのでそもそもの支援が不十分になるということで、場の議論を含めてしてほしいということで、資料2が出ているということになります。補足になっているかどうか分かりませんが、基本的には提言につなげていく、もちろん市民協働セミナーも実施して、多くの市民の方々の意見を聴取させていただくということになりますが、今日の段階で、もしくは(1)、(2)ありますけれども、大項目でもっとこういうものを立てた方がいいのではないかと、まさに北野澤委員の前の意見だと思うんですけれども、大項目にもうちょっとこれが必要じゃないか、こういった意見でも結構ですので、また忌憚のない意見交換をしていきたいと思えます。時間が今回限られているということもありますので、だいたい3分ぐらいにまとめてもらえればいいのかと思います。言わなくちゃいけないことは言わなくちゃいけないので、3分過ぎて回っていく間にどうしてもこれは言いたいということがありますので、それは最後に話してもらおう機会を作ります。それでは今回は菅野委員から順番によろしくお願いします。

(菅野委員)

前回の審議会が大学の授業と重なっていて出席できなかったのも、議事録は読ませていただいたのですが、もしかしたら前回のお話と被る部分がありましたら、すみません。この資料を見させていただいて感じたことというと、身近さが一つキーワードになってくるかなと思っていて、身近な距離感で色々な人が集まって協働していくというのがテーマになるのかなと感じていて、学生の視点になってしまうんですけれども、やっぱりこういうのを見ても大人がやっていることと感じてしまう

人が多いと思うので。あと市民協働課だと、わくわく子どもミーティングとか、小学生とか中学生対象にやっていたりすると思うので、そういう活動をどんどん広げていけばいいのかなと。特にコロナの関係で周りの小学生を見ても十分に遊べていないのかなと。自分が小学生の頃と比べても感じるので。思い出づくりではないですけれども、そういう活動を広げていったら、結局、人材の育成にもつながると思いますし、市の活動が身近なんだと感じる機会って、自分は参加させていただいているから分かりますけれども、意外と学生ってないので。身近な所でそういうのをやって。町内会館も自分の家の目の前が町内会館なので、結構利用状況など家からすぐ見えるんですけれども、コロナになってからは特に利用する人って、町内会の役員さんと子ども会の役員さんにとっていう感じで、一般の利用者って本当にいないと思うので。増田委員がカフェやっているという話が前回出たみたいですが、気軽に人が集える場所っていう、学生とか小学生、中学生、子どもも含めて、町内会館を軸に、身近な距離感で、町内会館から始まり、市民協働課を含め富谷市の行政の方々とも関わられるような場というか、しくみを作っていくべきなんじゃないかなと思っております。以上です。

(佐々木会長)

ありがとうございます。前回授業で来られなかったのですよね。唯一の大学生です。学生や若者の視点、非常に重要なのですが、前回いなかったのも、ここにはその視点が入っていないということなのですからけれども、前回の議事録をきちんと読んでくれたということで、貴重なコメントをしてもらいました。ちなみに、とみぷらとか使ったことはありますか。

(菅野委員)

富谷塾生の活動もさせてもらっているのも、とみぷらを利用したことはあります。あと、とみやどとかもよく行きますし、大学と連携してイベントもさせてもらいましたし、市民協働課との関わりもあるので、この中に出ている中で、ボランティアセンターと公民館は、あまり利用しないかなという感じです。

(佐々木会長)

町内会館は利用しますか。

(菅野委員)

昔は、両親が町内会の役員をやっていた時や、子ども会をやっていた時はよく行っていましたが。あと、コロナの前は町内会のお祭りやっていて、自分は司会をやらせていただいて、そういう時はよく利用はしていたのですけれども、年齢が上がるにつれて、コロナという特殊な状況も相まって、利用頻度は減りました。町内会館に関してはほぼゼロに近いです。

(佐々木会長)

ありがとうございます。今の話の中で親にくっついて行っていたという話もありましたけれども、若者に参加してほしいという相談が結構大学にも多く来るのですけれども、ただ来てと言っても行くモチベーションにならないので、若者の参加を進めるという上でも、しっかり役割もくっつけて参加を呼び掛けるよう

な、かと言って、あまり負担にならないような、学生の経験値が上がるような役割をセットして呼び掛けるような仕組みというの必要なのかなということ、今菅野委員のお話を聞いて思いました。特に若者の意見は前回抜けていたので、私が根掘り葉掘り聞くような形で追加質問しましたが、いい意見を出してもらったと思います。それでは北野澤委員お願いします。

(北野澤委員)

まず、この間ざっくばらんにバラバラと意味もなくしゃべったものが、こんなに綺麗にまとまるんだなというふうに思いました、本当にありがとうございます。いかにも最初から資料2をイメージしたような話をみんながしたかのようにまとまっているので、改めて今日も何回も読み直してきましたが、いいまとめ方しているなというふうに感じております。今日、この間しゃべったことに色々細かいことだけは考えてきたんですけども、基本的には資料2のまとまりでいいたろうなというふうに思ってますし、今度5月ですか、市民協働セミナーを開催する場面で、それぞれの団体で、私が入っているところと言えば保護司のメンバーも以前1月の時に参加すると言っていましたし、それぞれの立場からの色々な要望を聴いて、これがもうちょっと細かく埋まっていくのかなというふうに、大まかなところの骨子はできたので、そこの細部を埋めていく部分ではあるのだろうなと。細かいところと言えば、先程町内会館のことで色々なこと出てきたんですけども、町内会館ってご存知のように町内会で運営をしているものですから、使い方が厳しい町内会とラフな町内会と色々ありまして、簡単にその日のうちに今晚ちょっとソフトボールの打ち上げあるから使わせてと言わせてくれるところと、1か月前、1週間前から予約しておかないと使えない町内会とか色々なことがありまして、それは鍵を管理する人とか町内会館を管理する人にとってみても、色々な制約があるのかなというふうなことがあるので、使い勝手のいい所、例えば私は明石台三丁目なんですけれども、明石台三丁目は使い勝手のいい町内会、二丁目もそうなんですけれども、ラフに使えるようなところもあるのかなというふうに思います。以上です。

(佐々木会長)

ありがとうございます。市民協働セミナーは60名以上の申込みがあったということで、短期間でよくご参加していただいたというのは、一方ではこんなに楽しみに思ってくれているんだという驚きがありましたけれども、今おっしゃっていただいたとおり、市民協働セミナーにまたお声がけいただいて、そこでもオープンに意見をもらおうということも非常に重要になってくるのだと思います。また、町内会館もそれぞれに多様性があるということがありましたので、必ずしも全部一律にするということではないのだと思うのですけれども、ちょっとどのようにまとめていか分かりませんが、そういったそれぞれにいいところと悪いところ、メリット、デメリットあるのだと思うのですけれども、それをどのように活用していくかということは考えなくてはならないのだと思います。ただそれを考えるにあたって色々な課題もありますよということだったと思います。では、増田委員お願いします。

(増田委員)

北野澤委員もおっしゃってましたとおり、すごくよくまとめていただいたということにまず感謝したいと思います。あと菅野委員がおっしゃっていた身近な距離感、これはすごく重要なテーマだなと思って聞きました。一昨日、私は毎月1回、町内会館でやっているカフェを開催したのですけれども、すごく嬉しいことがあって、1月に手術をなさった高齢者の方が一歩外に出るデビューの場として、このカフェを選んで来てくださった、それから小学校の時に、私たちのイベントに来てくれた子が中学校を卒業して、お母さんが行くけれどもあなたも行くと聞くと、男の子なのです、嫌と言わずに一緒に来てくれたのです。すごい倍ぐらい大きくなって、小学校の時から。嫌と言わずに、もう間もなく高校になる男の子が来てくれた。あと赤ちゃんの時人見知りで大変だった子が、幼稚園ですっかり社交的になって、女の子が来てくれたという、すごく今回嬉しいことがたくさんあったのですね。それで思ったのは、私はずっとここで、引越しとかなく生涯を終えられるくらい、ずっとみんなと仲良く住んでいきたいなと思えるようなわくわく感というのを住民の人がクリエイティブしていくという気持ちがすごく大事で、子ども会も抜けていく、町内会も抜けていくというのは、なんとなく義務感、回ってきてしょうがなくやる役割みたいに使われているからというところもあるかと思うのですけれども、自分がこれからも住む所をちょっとでもいいものにして、ここに住んでいて良かったな、ここは最高だなと思えるものにしていこうという思いから、市民協働って発信するのがいいなと思っていて、今、私色々な会議に出ているのですけれども、課題を見つけて、その課題を解決というのはもう古いつておっしゃっていた方がいて、こういう理想があって、そのためにはどうしたらいいかというふうな課題を考えるという、そういう順番じゃないと結局、課題でネガティブなもの、じゃあどうするかって言って進歩がないと思うのですね。ですから、ぜひこの市民協働は本当に一生ここに住みたいっていう、まちをクリエイティブしましょうみたいな目標があって、そのためには地域によって課題が違ふと思うのですね。でも良さも違ふ。そういうのは自分たちで良さと課題と、皆で力を合わせていいものにしていこうっていう、そういう構造の方がよりすごくいいものになっていくかなというふうに感じております。以上です。

(佐々木会長)

どうもありがとうございます。今事務局でにこにこだと思いますけれども、文言を書くのにいいコメントがいっぱい出たんじゃないかと思います。今すごく、こういう方針を作るにあたって、早速取り入れたいと思ったのは、と言うより取り入れなければいけないと思いましたのは、(1)と①の間に文言が入っていないのですよね。なので、(2)もそうなのですけれども、課題ということに、そこにまだ何も文言入っていないので、今、増田委員が言ったようなビジョンをですね、あるべき姿、そういうものが見えていくというのがいいんじゃないかと聞いておりました。いいことをいっぱい言っていただいたのですけれども、構成に関して大きく今の意見で皆さん見えてきたんじゃないかなと思います。ビジョンを入れて。どうしても日本の場合は課題の抽出というのが入ってくるので、多分その方も海外の取組を知っているのだと思うのですけれども、海外に行くと課題をイシューではなくチャレンジと訳したりするのですよね。なので、とは言え日本の計画はどうしても課題抽出があって、それに基づいて解決策を示すという、なんとなく日本的なストーリー

一もあるので、ここの課題を取ると難しくなると思うのですけれども、でも今のお話も非常に重要で、課題というのは悪いところのあら探しみたいになってしまっているんじゃないかというふうことが実際ありまして、私もポートランドに行ってみることに一緒に参加した時は、課題をチャレンジと訳していて、課題を見つけるところまでは一緒なのですけれども、これをどう使えばいいかというふうに考えるのですよね。なので、せめて、ビジョンまではいかないのですけれども、ミッションを考えるのですね。そして課題を見て、ミッションを考えて、ビジョンにしていくという流れになってくるのだと思いますが、そういった意味では(1)と①の間とかに、今おっしゃっていただいた理想とかビジョンですよね、課題を抽出するのですけれども、何のために抽出して、どういうふうな市民活動にしていくために生かすことを提言していくという形の方がいいのかなと思いましたが、今も市民活動というのは、つながりを作る場であるとか、住民がクリエイティブしていく場だということはこの辺に埋め込んでいきたいなと思いました。そしてまた、町内会館の活動ですね、教えていただきまして、一方、外に出るデビューの場になったと、それはすごいですね。そういう拠点がいっぱいあるまちほど、住みやすいまちなのだと感じるところです。それでは村上委員にお願いしたいと思います。

(村上委員)

資料は一通り見て、この間のことがこのようにまとめられていて、見やすくなったというのは一回置いておいてなんですけれども、市民協働課さんが今までやってきたところって、今一つ分からなかったのが質問したいんですけれども、町内会の、平岡委員のような会長さんとかの集まる会というのは、市民協働課さんが受け持ちですか。

(市民協働課長)

そうです。

(村上委員)

各町内会の色々な課題というのは市民協働課では押さえているということでしょうか。

(市民協働課長)

はい、そうです。

(村上委員)

それではもう一つ。私なんかは、会館を利用するというよりは、外でやっている活動が多いので、このコロナ禍であっても大きく変えることなく、活動させてもらっていることが多くて、イベントなど縮小はしたものの、やっぱりコロナ禍であっても参加したいという人があまり減らずにあったんですね、この2年間。というところを色々経験させてもらってきて、自然豊かな富谷市というところも掲げているので、コロナ禍だから来ないというのはあまり私は入っていないのですよね、自分の中に。それはまた置いておいて、富谷市で花いっぱい運動ってやっていますか。

(市民協働課長)

やっていました。今もやっています。

(村上委員)

それって皆さんが一緒なのか、各町内会だけで、各町内会また人数が決まって行われているのかとか、そういうのが知りたくて。そこだけ聞いてみたくて。

(佐々木会長)

課長もいっぱい言いたいことあると思いますので、どうぞ。

(市民協働課長)

花いっぱい運動のことなのですが、かつては、随分昔なんですからけれども、生涯学習、社会教育事業の一環で、花いっぱい運動をやっていた経緯があって、その時には、当時富谷町だったので、町内全域でという形でコスモス運動というのをやっていて、コスモスの種を各町内会に広くお渡しして、まちの中をコスモスでいっぱいにしようという活動はやっていたのですけれども、最近では、多分、佐藤政悦委員がお詳しいと思うのですが、緑づくり事業と言うのですか、その一環で農林振興課でやっている事業で、そちらに関しては今は補助金制度になっていて、お花とかを増やしたいという町内会向けに、希望するところに補助金を出して、お花を植えていただくという活動は今現在もやっているということです。生涯学習の事業としては今はもうやっていないのですけれども、かつてはやっていたという経緯があります。

(村上委員)

ありがとうございました。市民の協働で一気になんか盛り上げるやつで、もし継続してやっていったのであれば、一回そういうのを町内会に投げかけてって思っていて、みんなが一緒にまち全体でできるものというふうに考えた時に、外でやる活動であって、かつ住民がこう、町内会の一斉掃除ってあるじゃないですか。今はそれさえもストップになっているのですね。そういうので地域コミュニティが生まれたりしていたところもあったかと思うので、何か改めて、名前変えてもいいので、まちが何か一斉にするというものを、市民協働の一つの何か、一回やってみてもいいのかなと思ったし、私はミツバチもやっているの、そういう場がありましたら、ぜひ私が行って皆さんに声掛けしてみたいなというふうにも思っていたので、町内会の皆さんが集まるようなものがあったら、そういう声掛けしてみたいなと。この場とはちょっと違うかもしれませんが。そこから何か色々、わくわくミーティングの時でもいいのですけれども、そういう形で、私も情報的に入れたかったということがありました。

(佐々木会長)

ありがとうございます。そういう意味では、④の市民協働課のところですね。自分で自分のところを書くのは多分大変だと思いますし、変に書いて後で突っ込まれるのも嫌なので書きにくいとは思いますが、今の村上委員みたいな意見なんかは、ある意味、市民協働課のところにも関わってくるのだと思います。地域資源という意味では、これまで行政がやってきたことって地域資源なのですよね。なの

で、そういうものを一旦棚卸して、これまでの活動を整理するということは非常に重要じゃないかなと思います。ただ、行財政が悪化していて、行政職員が今全国的に減ってきている状況にある中ですので、取捨選択がこれから必要になってくると思うのですよね。コロナを機にかなり負荷がかかるものはですね、やっぱり止めることも含めて検討しなければならない。ただ、住民参加で、まさに協働で成り立つようなものを残していくということが、ポイントだったと思います。そういった意味では、今、村上委員がおっしゃっていたような、整理する中で取捨選択だと思うのですけれども、何かから残すということでもなくてもいいのですけれども、何か富谷の市民協働というところだよということで、今、蜂蜜が一つ象徴になっている感じがするのですけれども、何か蜂蜜とプラスアルファするようなものですね、市民協働で、蜂蜜以上にもっと皆さんが関わりやすいようなものという意味だったと思うのですけれども、何か一つ打ち出すことも必要ではないかということが、やった方がいいなと思って聞いていました。ただ、むやみに何か新しいことということではなくて、一回整理が必要だと思うのですよね。多分いっぱいあると思いますし、蓋を開けたくないというものもあると思いますけれども、それを含めて、今取捨選択を、コロナを利用してできるかできないかということが、色々な自治体が今みんな検討に入っています。コロナを機に、逆にストップしたことによって、止める機会になったというメリットもあるのだと思うのですよね。それを全部戻していくと、また大変になっていくと思うので、逆にそこはクリエイティブにどういうふうにしていけばいいのかなと、時代に合わせて考えていけばいいのかなと思って聞いていました。ぜひ何か一つこれというのを審議会の中でも考えて、それをわくわくミーティングとか市民協働セミナーなどに出して行って、どう変わるかどうかということをおたのしみしていただきたいと思います。そして共感と住民参加を得られるようなものを何か作っていきたいですよ。すみません、私が今話を聞いてやるべきだと思ってですね、ついつい応援演説みたいになってしまいましたけれど。

(村上委員)

市民協働ってやっぱり、住民から発信できるようなふうには作っていかないと、いくら上からこうなってなってもだめだと思うから、何か市民から、自らできるものを作っていうものを作った方がいいのかなというふうにすごく思っていて、参加してみたいというような、そういうもののお手伝いだったらできますっていう感じです。

(佐々木会長)

おっしゃるとおりですね。これからは市民参加型、あるいは市民発というものが増えて行って、行政発、行政主導でないものでやっていくと。そこは行政ができるフォローをしていくということが持続するイベントになってくるんだと思います。それでは、平岡会長職務代理者をお願いします。

(平岡会長職務代理者)

私はやっぱり町内会目線でしかあまり分からないのですけれども、私たち、高齢者向けに何でも考えてしまうんですね。やっぱり菅野委員がおっしゃったように、うちの町内会の子どもたちも、お父さんお母さんに付いて来て、一番先程おっしゃったクリーン作戦とか、町内会清掃とか、お祭りとか、今町内会行事はほとんどないですから、巻き込むというか参加してもらうことは難しい。それから東日本大震

災では、中学生、小学生が先頭に立って働いてくれたということがすごくあるので、そういう子たちも参加できるものを作っていきたいなといつも思っているのですが、どうしても高齢者のひきこもりとか、外に出てもらうための行事とか、そういう方にばかり目が行って、なかなか全体に関わることをやろうかなと思っても、できない状態ではあるのですね。そこは市から言われてやるのではなくて、47ある町内会の中で、できるところ、できないところ、そこでないとできないところありますから、自分の所でできることを何か発信していけばいいのかなと日々考えているところです。あと子どもたちって、明日これがあるから行きましょうかとは思わないと思うので、親と小さい頃からの環境があって、付いて来た子たちって、また戻って来ますよね。そういうつながりってやっぱりあると思うので、そういう子たちは必要な時だけ利用するのではなくて、大事にしていきたいです。私はそういうふうにして日々やっているところではありますが、村上委員がおっしゃったように、やっぱり上から目線ではなくて、市民の立場から何か発信していくということが、大切なことだと思いますが、色々なバランスを考えるとなかなか難しいかなと思っています。今こうやって私がしゃべっているのも、事務局綺麗にまとめてくれますから、綺麗にまとめていただいたことに感謝と、できるだけ皆さんでもっともっと意見出して、私はこれで十分に満足というか、良くできているなって思っています。

(佐々木会長)

重要な指摘だと思います。47町内会それぞれあるということで、どうしても行政ですと一律ということになってしまうかと思うのですけれども、47町内会それぞれに特性があると思うのですね。多分そういうところがこれからポイントになってくるのではないかと思います。全体集めてこれやってくださいというような時代ではないので、逆に47町内会の何か例えばデータを取ってみるとか、何に強い町内会とか、何か分析的なものをされていったら面白いと思います。もちろんデータ的に取るだけではなくて、実際写真に撮るとか、活動の強みというところを見ていく必要があるのかなと思います。それを分析した中で、市民協働課の方で何かこういうのをやってみませんかとか声掛けするのがいいんじゃないかなと思います。例えばですけど、菅野委員の発言にもありましたけれども、子どもというのはキーワードになってくる。身近な距離感のもの、なかなかこれは菅野委員が言ったように、大人がやっていることとは違うと思うので、場合によっては子どもたちに主催事業をやってもらうとか、そういうことを全部に一気にということではなくて、分析して、ここだったらこういうことをやったらいいのではないかということ、一緒に協働でやってみませんかという進め方なんかがいいのかなと、こういう世代間の連携というのは非常にいいのではないかなと思って聞いておりました。次に佐藤委員お願いします。

(佐藤政悦委員)

私も平岡会長職務代理者と同じく町内会という形で今までお話をさせていただいておりますので、今47町内会ございますけれども、旧町内会、昔の富谷町の町内会16ございまして、その他の方々が新しく開発された部分に住まいの方ということで、そういう形になっています。そういった中で、どうしても町内会館の、どういうふうを活用するかという部分については、コロナ前はそれでも何とかお祭り

やったり、みんなで生き物調査なり何なりをやったりとか、花いっぱい運動をやったりとかいうような形でやってこられたのですけれども、コロナで2年間、それがほとんどなされてなくなったということで、旧町内会の部分については、大変寂しい形の町内会館の活動という形になっております。そこで、逆にそれを生かした形で、どうやったら活発にやっていけるかという部分をもっともっと掘り下げて、みんなで色々話し合いをしながら、前の回の際に移住者も考えたらいいんじゃないかという話も出ましたし、町内会の方々でも、団地の方々が農業なり何なりをやりたいという部分については、そういう方々の参加という部分もいいんじゃないかという話もありましたし、その辺も色々な形で利用させていただいて、この旧町内会の部分についても、活発になるように、はっきり言って街かどカフェなり色々な所でやっておられますけれども、ほとんど旧町内会の部分はなしというのが現状だと思います。ですから、そこまで行かなくてもいいので、そういう形になるような、そういう盛り上げ方というか、そういうのも一つの市民協働の在り方なのかと思いますので、ぜひその辺、課題だけ申し上げて申し訳ないのですけれども、そういうのを含めた形でやっていったら、もっともっと旧町内会、団地の皆さんとも合わせた形で、いい形でまちの盛り上げというのができていくのではないのかなと思っています。そういったことで、よく私は村上委員と話をさせていただきながら、とにかく協力できるものは何でも協力するという形でやっていますので、ですから今、花いっぱいも市民協働課から話あったとおり、農林振興課の方に移って、そっちの方で花いっぱいというものもやっているのですけれども、そういった部分もせっかくですので、今私が花を色々な所に届けています、私の花ではないのですけれども。ですから、そういう部分で、もっともっと色々な形で利用できていけば、やっぱり花があるのとないのとでは、各地域まるっきり違うのですよ。ただぼつんと町内会館があるのと、周りに花があって町内会館があるのと、また違いますし、そういう盛り上げ方というのも一つの形としていいのかなと思われまますので、課題ばかり言って申し訳ないのですけれども、ぜひみんなで考えられたらなと思っています。

(佐々木会長)

本当に貴重な意見いただいております、先程村上委員から出た意見と、私の方でまとめきれていない部分が今の共通しているのですよね。どうしても市民協働を促進するというと例えば支援施設等ということで話が建物の中に入ってしまうのですけれども、外でやっている活動、活動なのでむしろ外が多い可能性もありますよね。なので、その辺をまだ建物とあと(2)の方ですね、外の部分をどう扱うか、市民協働課をどう扱うかという問題もありますけれども、これの書き方を検討していくということなのだと思います。市民活動を促進する場というものは、箱ものである必要はなくて、公園とか、むしろその辺の道端だっていいわけなのです。その辺をですね、とは言え公共施設と限定するのだとは思いますが、その辺をどうまとめていくかということが重要になってくるのだと思います。今、話をいただきましたけれども、お祭りとか生き物調査とか、そういうことを町内会館を拠点にやっていた所もありまして、それが今動けなくなっているのですが、そういうところの掘り下げも必要だということで、47町内会の16は、かつての富谷村からのつながりだということですが、それを含めてですね、きちんと47町内会の特性を改めて把握するというのは重要だと思いますし、こういう作業こそ、コロナの間にやっておくことがいいのではないかと、今話を伺って私も感じさせていただきました。

ました。まさに今団地の方が農業をやるのであれば、なんぼでも受入れると、そういう環境が富谷の強みではあると思いますので、その辺も記載していきたいですね。それでは佐藤怜美委員にお願いしたいと思います。

(佐藤怜美委員)

私も資料を結構読み込んできて、かなりまとめられているなというところで、本当にすごいな、ありがたいなと思っているところでした。私がちょっと感じたところは、②の分野や地域を越えた連携、つながりづくりというのと、④の情報の発信と共有のこちら二つに係るところなのかなと思ってはいたのですけれども、まず情報の発信というところでどんな活動があるのかなとか、それから、やろうと思っているけれどもどうしたらいいのか分からない方にどう発信していくか、ということで佐々木会長からもケースブックのようなものを作ってというようなお話もあったと思うのですけれども、まず発信する前に例えば市役所さんの中でもそうですし、社協でも各機関の共有、どんな活動を把握しているとか、そういったものの共有をしなければ発信をすることが難しいかなと思っておりました。例えば市役所の中にも高齢分野中心に、担当をしている長寿福祉課であれば、47行政区の中に、23の居場所づくりのゆとりすとサロンがあるとか、街かどカフェは現在4地区ありますが、こちらも町内会を一部巻き込んで行っている居場所づくりがある、それが長寿福祉課の担当になっています。例えば子育て支援課であれば、はあとという雑誌がありますけれども、そちらの中に、各地区でやっているサロンだったりとか、サークルだったりとか、そこに特化した情報があると思います。あとはお子さんを巻き込んでということであれば、児童の分野では学校教育課だったりとか、そういったところで、社協は全体の市役所の課をまたいで関わらせていただいているのですけれども、こういった情報、この中の横のつながりを作ると、新しいものを作っていくより既存のものをどんどん良くして行って、その情報を得たうえで、市民に情報を発信することにより、ケースブックも作りやすくなるのかなということを感じました。社協で言えば、情報発信の部分では、3月の7日から14日まで、イオンモール富谷で富谷社協サクス展というものを行ったのですが、委員さんの中で、もしかしたら見られた方がいらっしゃるのではないかなと思います。こちらは社協の事業を広く発信するという目的でやらせていただきまして、不特定多数の方が集まる、興味がある方もない方も、イオンを利用したついでに何だろうと見てもらって、社協を知ってもらおう。すごくいい情報発信の場になるのではないかなということで、1週間に渡り展示会のような形で2階のスペースを使わせていただきまして、おおよそ30パネルを両面使いました。60面使わせていただきまして、あとは12月に行いました地域福祉フォーラムの様子を動画でエンドレスで流すという形で、社協の情報発信を行いました。こちらに関しましてはアンケートをとったのですが、社協を全く知らないという意見が結構ありまして、やはり不特定多数の方に向けた情報発信をするということはすごく大事なことだなということを実感しました。こういった意味でも、イオンさんなどにこういう場を提供していただくとか、発信する場も色々考えられるのかなと思っていたところなんです。あと、増田委員がおっしゃっていた課題から入るじゃなくて、私も研修などで言われていたのですけれども、課題から入るのではなくて、地域地域のいいところから入っていき、見つけていきというように研修で学びまして、いいところをもっと良くするためには何が必要かなと、ポジティブなところから入っていくという視点も、すごく

大事なのではないかと、研修で言われたので、増田さんの意見にすごく共感できました。

(佐々木会長)

ありがとうございます。そういった意味では、今ポジティブシンキングとよく言われますけれども、まさに本市の課題についても、どうしても日本的に課題を行政の書類としては必要だと思うのですけれども、なるべくポジティブに持っていくということが次につながるという意味で重要なのだと思います。今課題をどのように良くしていくかだと思うのですけれども、この提言もあくまでどう良くしていくかということですので、その視点は必要なのかなと思いました。それとですね、今話を聞いていてですね、皆さんそう思ったと思うのですけれども、とりあえず私の方でもケースブックのようなものを可視化する、言いたいことは可視化することなのだと思いますけれども、その前の段階に、まずはもうちょっと、それぞれにとっては当たり前なのだと思いますけれども、実は聞いてみると知らないということが多くあるということが、社協のアンケートでも分かったということなので、ぜひ、実際ノウハウとかケースブックというのは、ガイドラインでもちょっと触りのようなものを作ったのです。その以前に、私もちょっと分かりませんでしたけれども、47町内会のうち例えば22のゆとりすとサロンがあるとか、4つの街かどカフェがあるとか、そういうことを皆さん分かっているのかもしれないですが、聞いてみるとあまり分かっていない人が多かったということですので、役所の中で各セクターが持っている、当たりの情報なのだと思いますけれども、これをイラスト化したり、可視化したりする、そういうものを作ることから始められたらいいのではないかとということでしたので、ぜひ、それはそのまま追記してもらいたいと思いますし、そういうのがあると多分便利なのだろうなと思います。そういう意味では一度、総量の把握というのでも、ケースブックは個別事例になりますので、全体の把握というのでも改めて必要だという意見だと思います。本当にその通りだと思いました。それでは、最後になりますが、日諸委員にお願いいたします。

(日諸委員)

私はこの資料を読んで、自分が話したところをすごく良く簡潔にまとめていただいていた。実はこの会議の時に、私は自分の事業の中で大変大きな問題を抱えていました。自分の仕事のことですけれども、ギャラリーなごみというところの移転問題がありまして、本当にどうしようかと途方に暮れていた時の中の会議でした。そして、この問題のお蔭で逆にピンチがチャンスで、本当に富谷市の皆さんに、もちろん行政、担当部長さん、富谷市の若生市長さんにご尽力いただき、地域の周りの方の優しさとか、思いというのをひしひしと感じられて、本当に有難いなということをもう一度感じたような出来事でした。お蔭様で無事に移転先が見つかりまして、また事業が再スタートしようとして、準備しているところなのだと思いますけれども、1月に全国シルバー人材センターのシルボンス全国大会というのがございまして、1,300ある全国のシルバーの中で3センター、芦屋市と大野市と富谷市、3センターが選ばれ、女性活躍の場ということで私が東京に行って、事業の事例発表をしてまいりました。その時に、20分間の発表だったのですが、今までの色々なやってきた事業、今、抱えている問題とか色々お話して、高齢者が生き生きと活躍していることを皆さんの前でお話したら、最後に総評をいただいたのは、富谷市は本

当に地域が元気で、笑顔をつぐむお手本のようなまちですねと、本当に褒めていただきました。みんな拍手して、マスクしていたから良かったけれど涙が出そうでしたというお話もいただいたくらい、私が感じたことをそのままお話しただけでしたが、そういうつながりというものは、確実に皆さんに伝わったのだなということを実感して帰ってまいりました。その時にやはり、私はシルバーなので高齢者の立場でお話申し上げますけれども、色々な対価を得るより、居場所を見つけて生涯幸福感を得られることが、やはり一番大切なことで、そういう地域づくりができるのが富谷だと思い、この前お話しましたけれども、そういう地域づくりができているまちなのだと感じました。私も今回も増田委員と同じような喜びを味わいました。子育てサロンもやっていますので、サロンの開所から来ている子どもたちが、今回中学校卒業でした。その他の事業で書道教室もやっていますので、書道教室にも来ていた子どもたちが、中学校を卒業して、逆に花束を持って、お世話になりましたとお母様と挨拶に来てくれました。なんか鳥肌が立ちました。受験は心配しましたがけれども、ちゃんと合格して、その喜びもまた届きました。そういう仕事の中で喜びをもらいながらやれているというのは本当に幸せだなと思いました。あともう一つは、この前の会議が終わってから、佐藤政悦委員とお話して、先程ちょっとお話していただきましたけれども、町内会館の利用で街かどカフェとかをやっていますけれども、活動ができていない所があるということで、やはり与えてもらうだけのサービスより、逆に高齢者の得意な分野を利用して、自分の得意なことを発表できる場を与えてあげるといえるのか、例えば農作物を作るのが得意だったりとか、漬物を作るのが得意だったりとかという人を若い世代の方に教えてあげる、伝授してあげるというようなことを逆にすれば、いつも何か高齢者の方って全部セットされた所に出向いていくようなイメージなのですが、そういうのではなく、逆に元気な高齢者がいっぱいいますので、活躍の場を与えて逆に若い人たちを呼び込んで、その若い人たちもお子さん連れて、一緒にお勉強しても良いし、一緒に作業しても良しで、そういう逆バージョンの場を提供できたら、もっと元気になれて、もっと活性化できるのではないかと思います。

(佐々木会長)

ありがとうございます。まずは聞いていてびっくりしたのですけれども、全国三つのところに呼ばれて行っていたということで、皆さん知っていたのですか。皆さん当然知っているのかなと思っていたのですけれども、私も全く知らなかったのです。びっくりしたということで。そこで笑顔をつぐむお手本だと言われて帰ってきたと。そういった他者からの評価というのは非常に重要な時がありますので、ぜひその時の話をまた何かの機会にお聞かせいただければいいのではないかと思いますし、市民協働セミナーなどでこういう発表して来ましたということで、皆さんにフィードバックしていただくのもいいんじゃないかなと思いますので、その辺、事務局で個別にお願いしてみてください。まず、移転の問題があったということで、大変な時期だったということで話を聞かせていただきましたけれども、またそこで皆さんに知恵を出していただいて乗り切ったということで、それもまさに支援の一つのモデルだと思います。企業支援ですと、静岡モデルと言って5人くらいの専門家が入って、その人を起業させるモデルが全国に広がっているわけなのですけれども、市民活動も何人かの方に入ってもらって、解決策を考えていくというのは、それを制度化するというのはいくつかの点でいいのかもしれないのですけれども、何かそういうよう

な機能も一つ最終的な支援の強力な手段だと思いますので、今の話なども参考になるのではないかと感じて伺っておりました。それと先程、ゆとりすとサロンが22展開されているということがあるのですけれども、やっていない所にやらなくてはならないみたいな何かバイアスがかかるとまずいのではないかなと思って聞いていたので、逆に今日諸委員が言ったとおり、ケースブックのようなものを作っていく中で、それぞれの強みの部分をちゃんと強くすると、発信するということが重要なかなと思って聞いておりました。そういう意味では、やはり何らかの情報発信というのは必要ですし、行政の仕事でもありますので、その一つの何となく方向が見えてきたのではないかなというふうに思います。今の話にありましたとおり、居場所というの何かこう無理に起業者を生むとか、市民活動を生んで数を増やすみたいなことだけではなくて、今の話にもありましたように、笑顔がつながるとか、あるいは幸福感が増すとか、必ずしも、KPIというのがありますけれども、そういったことだけにとらわれないようなKPIの設定というのこれから重要になってくるのかなというように、重要なコメントをいただきました。それでは、短い時間の中で、一巡をしましたが、最後これだけはもうちょっと話しておきたいということをお持ちの委員はいらっしゃいますでしょうか。北野澤委員お願いします。

(北野澤委員)

私も、日諸委員の議事録でいうところの、今日行く場所と今日用事があるということの幸せというのは、この1行がありまして、我々サラリーマン、60で定年して、65で再雇用が終わって、さあこれから何しようかという時に色々なことを考えた中で、私はボランティアという、色々な形のボランティアをやっていこうと、それでネットワークを作っていこうという形にしているのですけれども、隣近所、会社の先輩たちとかを見ても、部長だったり、所長だったり、課長だったり、会社のすごく立派な面々がいっぱいいるのですね。そういう人たちのネットワークも築いていくのも大切なことなのかなと。菅野委員から身近なというキーワードが出たと思うのですけれども、昔で言えば、町内会の隣組とか、結とかというものがあつたのですけれども、それはちょっと拘束性のある、罰則性があつたりする部分なので、それをもうちょっと柔らかくした形で地域の全体を作り上げて、その上に色々な諸活動が段階的に積み重ねられていくのかなと。だから一番底辺の部分での人づくり、ネットワークづくりを第一にやっていかれるのも一つの方法、アプローチの仕方かなと思ひまして発言をさせていただきました。

(佐々木会長)

ありがとうございます。具体的に居場所ということ。ただどうしてもそこには拘束性とか罰則性、罰則という何となく悪いイメージがありますけれども、そういうものもセットされてきたわけですが、そういうものがちょっとフリーな環境というものを作っていくということで、ある意味、会社勤めが終わった後の方というのは、これも地域資源なのですが、なかなか今活動しきれていないと思うのですよね。そういう方もどのように戦力になっていただくかということの重要性だったと思います。それでは皆さん意見出し尽くしましてですね、およそ時間も来てまいりました。それでは、とりまとめになりますけれども、本日の審議は以上で終了とさせていただきますいわけなのですが、本日委員の皆様から頂戴した意見を

十分に考慮し、課題及び支援の在り方について整理を進めていきたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。

※「異議なし」の声あり

ぜひ、課題というものの捉え方について、今の意見をいただきまして、少しちょっとポジティブに捉えていただいて、その課題に対してさらに良くするにはどうしたらいいのかという視点でとりまとめをしていただければと思います。それでは委員の皆様、今日も貴重な発言をいただきましてどうもありがとうございました。引き続き、市民協働セミナーなどやっていきますので、またご協力をお願いしたいと思います。それでは私は以上とさせていただきます、進行を事務局にお返しいたします。

(市民協働課 高橋課長)

佐々木会長、委員の皆様、長時間ありがとうございました。それでは、その他といたしまして、まず初めに委員の皆様方から何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは事務局から連絡がございます。

(市民協働課 瀧田課長補佐)

本日皆様からいただきましたご意見、また私の説明の中で聞き取りにくかった部分を含め、会議録のご確認を今後お願いすることになると思います。その節はよろしくお願いたします。事務局からは以上でございます。

(市民協働課 高橋課長)

それでは閉会の挨拶を平岡会長職務代理者をお願いいたします。

(平岡会長職務代理者)

今日もこの委員の皆さんで今後の課題などを色々出し合いました。5月上旬に市民協働セミナー、開けない状態でいたのですけれども、ここにいるメンバー、さらに市民の多くの方から様々ご意見を聞けることを期待して、第3回目、5月の下旬にありますので、またその時に皆さんとお会いしたいと思います。本日はありがとうございました。